

令和6年9月市長定例記者会見

日時：令和6年9月3日（火） 午前10時30分～

場所：射水市役所会議室401

報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、読売新聞、射水CATV、
庄東タイムズ・ホットライン小杉

当局出席者：市長、企画管理部長、企画管理部次長、環境課長、総務課長

Q1. カーボンニュートラル自動販売機について、県内初導入とのことだが、今後市内で拡大する予定はあるか。

A1. まずは市役所内で導入させていただいた。ダイドードリンコ株式会社が、自動販売機の稼働に係る二酸化炭素排出量の非化石証書を取得されており、数に限りがあると思っている。ダイドードリンコ株式会社と相談し、増設可能ならば、協議していければと思う。

Q2. 他の自動販売機を更新したのか、それとも新設したのか。

A2. 新たに設置した。

Q3. 設置のきっかけは何か。

A3. ダイドードリンコ株式会社とはこれまでも環境関連の施策などで連携を図ってきた。今回、取組を紹介いただき、市で設置を進めた。

Q4. 設置は県内初とのことだが、全国に事例はあるのか。

A4. 把握はしていないが、おそらく全国的にはあると思われる。

Q5. 災害時などで停電の場合、手で回すということは、手動で飲み物を出すということか。

A5. 電源が落ちてしまった場合でも、手動で回して電気を発電させれば、中の品物を搬出する動力が発生する仕組みになっている。

Q 6. 電子契約について、省力化のメリットを数字で示すことができるか。

A 6. 様々な導入メリットが考えられるが、具体的な数字は未算出である。今後、議会などで改めて説明できればと思う。

Q 7. 震災の復旧・復興の進捗について、率直な思いを聞かせていただきたい。

A 7. 元日の地震から8か月が経過した。発災直後から緊急対応、インフラ修繕に努め、現在は被災者の生活再建、公共インフラの復旧・復興に取り組んでいるが、復興には時間がかかることを改めて痛感している。

復旧・復興が目に見える形で進まなければ、踏ん張って頑張っていこうという市民の皆さんの気持ちがくじけてしまうのではないかと危惧している。そのため、先日、被害が大きかった放生津と新湊地区において復興状況説明会を開催した。

1日も早く復旧・復興を成し遂げるために、全力を傾注していくことは当然である。公共インフラの復旧について、例えば、下水道は春に確認したよりも周辺の道路陥没が見受けられ、再調査している。拡大している被害箇所は国の査定を受け、復旧工事を進めることになる。当初、ロードマップでは期間を3年と示したが、被害の増加や復旧にあたる事業者の不足・材料の調達なども考慮すると3年を超える可能性がある。市民の皆さんにとっては非常に心がくじけそうになる情報かもしれないが、共有し、一緒に復興に向けて力を合わせ、お互いの信頼関係を持って進んでいければと思っている。住民の皆さんと意見を交わしながら、復旧・復興ビジョンも話ができると思う。

Q 8. 復興に3年以上かかるとのことだが、全体かそれとも特定の分野か。

A 8. 下水道を例にすると、被害箇所は5.3キロから12.1キロ以上に延長される見通しで、3年では終わらない可能性がある。

Q 9. 液状化対策について、港町における対策の思い、住民説明会で住民と意見を交わして、率直に感じたことを教えていただきたい。

A 9. 液状化の被害が顕著な港町地区は、道路舗装などの仮復旧は終えている

が、下水道・道路・側溝などの復旧はこれから取り組んでいく。本格的な復旧前はかなり時間を要している状況で、地域の皆さんも不安を感じておられることを改めて強く感じた。

市で行ったボーリング調査と国が庄川の堤防工事を行った時の調査結果などを合わせたデータを市民の皆さんに説明した。液状化を受けた箇所が広いエリアであり、国からはもう少しボーリングデータが必要と指導いただいている。効果的な対策方法をどのエリアで実施するのか、区画整理のような手法も絡めた新たなまちづくりを行うならば、どのエリアを対象にするのか、調整に時間がかかると思う。地域の皆さんと話し合いを重ね、方針を早く決めて対策を進めたい。

Q 1 0. 港町の別の場所で、ボーリング調査を追加実施するのか。

A 1 0. 今後考えていく。

Q 1 1. 液状化対策の工法に関して、今年度中に住民との合意を目指す予定だったと思うが、追加でボーリング調査をするとスケジュールへの影響が予想される。日程は変更されるか。

A 1 1. 追加のボーリング調査をすれば、実施・分析・工法の検討をしていくことになる。年度内に合意をいただいて進むのは、スケジュール的にタイトだと感じており、場合によって年度内は難しい可能性がある。

Q 1 2. 氷見市長が辞意を表明されたことに対する率直な思いを教えてください。

A 1 2. 氷見市の林市長が病気になられ、公務に支障があり、治癒に専念するため辞任されることは辛い決断をされたと受け止めている。復旧・復興に向けて先頭に立って活躍されており、氷見市の方が被害は大きいですが、復旧・復興を進めている同じ立場として、一緒に取り組んでいる心強さも感じていた。個人的には非常に悔しく、寂しい。治療に専念し、今後とも元気にご活躍いただき、指導いただければと思う。

Q 1 3. 新湊と放生津小学校の統合について、校名が決まらず、地元の思いと

はやや違うものが案として出ていることに関してどう思われているか。
また、問題があったとしたら、何が問題であったか。

A 1 3. 統合小学校の校名は、全員協議会で9月定例会にて追加提案すると説明させていただいた。協議等は、統合準備会で地域の皆さん・PTA・学識経験者の方も入って進めてきたが、校名は両地区の思いが非常に強く、議論が平行線だった。今年3月の第6回準備会において、委員からの提案もあり、校名選定の採決を取った。その結果も拮抗し、混乱が生じるきっかけになったことについてはお詫びを申し上げたい。

校名はデリケートな問題であり、採決結果のみで決定するのではなく、両方の関係団体に理解いただく必要があるとのことで、それぞれの地域に対して丁寧な協議を重ねてきた。しかし、現校名を新設統合校の校名にする理解を得られず協議が難航し、話し合いが平行線である現状のままでは統合が進まないと判断した。

今後、両校の児童数が著しく減少していく中で、子どもたちの望ましい教育環境を整えることを最優先に進めていかなければならない。校名を早期に決定し、校歌・校旗の作成、暫定校舎となる放生津小学校の改修工事などに着手しなければならず、来年4月1日の統合に間に合わなくなる。こうしたことから、統合協議を前進させていくため、教育委員会に一任していただき、校名（案）については総合教育会議で市教育委員会とも協議し、新たに「いみず未来小学校」にすることで9月定例会に条例の一部改正案、議案として上程することとした。

Q 1 4. 総合教育会議は7月24日に開かれたとのことだが、原則公開の会議がなぜ非公開にされたのか。

A 1 4. 公開する内容としては非常にデリケートであった。校名について、教育委員会に一任していただく協議を関係団体にしてしたが、第7回の準備会が8月19日に開催され、そこで一任される内容になっていた。総合教育会議ではなく、事前協議という形でもよかったと思うが、元々、総合教育会議が予定されており、校名案についても教育委員会からご意見をいただいた。原則公開ということだが、取り扱う内容によって公開の可否を判断した。

Q 1 5. 元々、総合教育会議が予定されていたということだが、報道機関には開催案内されなかった。ここまで非公開にする必要があったのか。

A 1 5. 総合教育会議は、教育委員会と市長が教育施策・市の取組などについて情報共有を図り、さらなる充実・効果を上げていく趣旨で開催する。原則公開としつつ、扱う内容はデリケートなものもあるため、公開に適さない場合、公開しないということ。案内が無かったとのことだが、市としては、秘密会議をしたわけではなく必要な内容を協議したと考えている。

Q 1 6. 総合教育会議について、この日は統合小学校に関する案件だけを扱ったのか。

A 1 6. 議題は統合小学校に関するものだけだったが、統合小学校のこれまでの経緯について情報共有と教育委員会に一任を図りたいということで校名の話も出た。

Q 1 7. 先月末に大島絵本館が開館 3 0 年を迎えたが、絵本館が市にもたらしてきた影響の評価、今後の活用ビジョンを教えてください。

A 1 7. 先月、開館から 3 0 年を迎え、記念式典も開催した。開館の経緯は財団の泉理事長からお話があった。絵本には、読み聞かせによる世代を超えたふれあい・温かみを感じるストーリー・作者が込めた強いメッセージ・作品を通じて人生観を考えることができるものがある。子どもたちがこれらの絵本が持つ様々な力・魅力に触れ、情操教育をする拠点として、大きな役割を担ってきたと思う。今後もこれらの拠点的役割を担っていただきたい。

国内に絵本をテーマにした施設はいくつもあるが、大島絵本館では絵本の魅力を感じられたり、手作り絵本コンクールなどで絵本を作る楽しさも発信したりしている。広く絵本文化の振興を図っていく要の役割も担っていければと思っている。コロナ前になるが、北陸新幹線の開業と合わせて軽井沢と黒姫の施設と連携したイベントも行っていた。共同利用の促進、絵本の文化振興といったネットワークをうまく連携させ、絵本の魅力・可能性を広げる活動に繋がるような大きな役

割も担っていただきたい。

Q 1 8. 今月下旬から市長が台湾に訪問するとのことだが、現地の首長と会う予定はあるのか。

A 1 8. 射水市の観光 PR が目的で、台湾の旅行会社へトップセールス、射水の食材を使った寿司の PR を行うイベントの開催に合わせて訪問をさせていただく。台湾の首長と会う予定は元々なかった。ただ、7月に台湾台北市士林区との5周年記念式典の際に、訪問団の方から「ぜひお会いしましょう」とお話をいただいた。日程が合えば会えればよいが詳細は未定である。

Q 1 9. 曳山祭りについて、新湊は県が有料観覧席の事業をすると思うが、海老江・大門も取組があるのか。

A 1 9. 新湊の曳山祭りは、県で祭りのマネタイズ化、収益を上げながら持続可能な祭りの仕組み・地域作りに還元していく取組を検討している。新湊での実績・効果を確認し、海老江・大門でも活かすことができるとなれば関係者に相談したいと思う。